

イエスのことば 第41回

するとイエスは、彼らにお尋ねになった。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」
ペテロがイエスに答えた。「あなたはキリストです。」（マルコ8：29）

□イエスの公生涯の起承転結

起：受洗から、メシア宣言（紀元27年の春、過越の祭り）を経て、宣教開始まで

承：メシアとしての権威を現わす。しかし結果的に、指導者層の拒否を受ける

転：弟子訓練

結：エルサレム入城から十字架（紀元30年の春、過越の祭り）、復活、昇天

□文脈の確認

1. 転の部、弟子訓練。十字架まで、1年余。
2. 紀元29年の春、過越の祭りの頃から、同年の秋、仮庵の祭りまでの、約6か月間において、イエスは、異邦人の地域へ4回、旅行した。異邦人地域への4回の旅行は、**退避（リトリート）と休息の時**であったと同時に、**弟子たちの訓練**を目的とした。
3. リトリート第1回：ガリラヤ地方を離れて、ガリラヤ湖の北東地域の町ベツサイダの近くへ。「五千人の給食」と呼ばれる奇跡を通しての訓練
4. リトリート第2回。ツロとシドンの地方へ。ツロでは、異邦人の女性がイエスへの信仰を表明し、幼い娘から悪霊を追い出していただいた。
5. リトリート第3回。デカポリス地方。イエスのもとに集まった異邦人たちに対して、「四千人の給食の奇跡」が起きた。
6. 前回は、ガリラヤ湖東岸から舟に乗って、対岸のユダヤ人地域、マガダン地方に着いたときの出来事。監視団がやって来て、イエスに天からのしるしを要求した。そして再び向こう岸へ（異邦人地域へ）。この船の中で、3つのパン種、すなわち偽りの教えや情報に注意するよう弟子たちに教えられた。パリサイ人、サドカイ人、そしてヘロデ党は、イエスについて、それぞれ、偽りの情報を流していた。
 - (1) パリサイ派・・・「イエスは悪霊に憑かれている」
 - (2) サドカイ派（悪霊や天使の存在を否定する。復活も信じない）・・・「イエスは神殿祭儀を破壊しようとしている」
 - (3) ヘロデ党・・・「イエスは、ヘロデ王家とそれを通してのローマ帝国の支配とに反対している」
7. 今回は、異邦人地域に入ってベツサイダに来たときの盲人の癒やし、そしてリトリート第4回、ピリポ・カイサリアへ行ったときの出来事、ペテロの信仰告白である。

リトリート第4回ピリポ・カイサリア ペテロの告白

□舟は対岸へ、イエスの一行はベツサイダに到着。まだユダヤ人の地域

(マルコ 8:22~26)

彼らはベツサイダに着いた。すると人々が目の見えない人を連れて来て、彼にさわってくださいとイエスに懇願した。

イエスは彼の手を取って村の外へ連れて行かれた。そして彼の両目に唾をつけ、その上に両手を当てて、「何か見えますか」と聞かれた。

すると、彼は見えるようになって、「人が見えます。木のようですが、歩いているのが見えます」と言った。

それから、イエスは再び両手を彼の両目に当てられた。彼がじっと見ていると、目がすっかり治り、すべてのものがはっきりと見えるようになった。

そこでイエスは、彼を家に帰らせ、「村には入っていかないように」と言われた。

(注意) イエスの奇跡に関する記録の中では、特異なケース。二段階での癒し

第一段階：両目に唾をつける・その上に両手を当てる→ぼんやりと見えるようになった

第二段階：再び彼の両目の上にイエスが両手を当てる→はっきりと見えるようになった

□リトリート第4回 ピリポ・カイサリアへ

1. 向かう途中で

(マルコ 8:27~28)

さて、イエスは弟子たちとピリポ・カイサリアの村々に出かけられた。

その途中、イエスは弟子たちにお尋ねになった。「人々はわたしをだれだと言っていますか。」彼らは答えた。「バプテスマのヨハネだと言っています。エリヤだという人たちや、預言者の一人だと言う人たちもいます。」

2. ピリポ・カイサリアにて、ペテロの告白

(マルコ 8:29~30)

するとイエスは、彼らにお尋ねになった。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」ペテロがイエスに答えた。「あなたはキリストです。」

するとイエスは、自分のことをだれにも言わないように、彼らを戒められた。

3. 死と復活の予告①

(マルコ 8 : 31~33)

それからイエスは、人の子は多くの苦しみを受け、長老たち、祭司長たち、律法学者たちに捨てられ、殺され、三日後によみがえらなければならないと、弟子たちに教え始められた。

イエスはこのことをはっきりと話された。するとペテロは、イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。

しかし、イエスは振り向いて弟子たちを見ながら、ペテロを叱って言われた。「下がれ、サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」

- (1) 「はっきりと話された」：たとえ話ではなく、明確に語った。しかし、弟子たちは理解しなかった。
- (2) 「下がれ、サタン」：ペテロはこのとき、サタンからの影響を受けていた。サタンは、メシアを十字架から遠ざけようと躍起であった。サタンは、メシアの死を望んではいたが、過越の祭りのときに十字架にかかって死ぬことだけは阻止したい、それがサタンの意図であった。
- (3) ペテロへの叱責が機会となって、メシアの弟子についての教えが次に続く。霊的に救いを受けるかどうかではない。救いは人の行いによらず、神の恵みにより、信仰を通して受け取るものである。救われた信者がメシアの弟子として歩む中では、失うもの、そして得られるものがある、という教えである。

4. 群衆に、自分の十字架を負ってわたしに従って来なさい、というたとえ話

(マルコ 8 : 34~37)

それから、群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた。「だれでもわたしに従って来なければ、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音のためにいのちを捨てる者は、それを救うのです。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら、何の益があるのでしょうか。自分のいのちを買い戻すのに、人はいったい何を差し出せばよいのでしょうか。」

5. 弟子たちに、たとえ話（解説がされたであろうが、解説は記録されていない）

（マタイ 16：24～26）

それから、**イエスは弟子たちに言われた**。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを見出だすのです。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら何の益があるでしょうか。そのいのちを買い戻すのに、人は何を差し出せばよいのでしょうか。」

- (1) 自分のいのちを救おうと思う者はそれを失う・・・イエスをメシアと認めないならユダヤ人指導層からの迫害・殉教を避けることができ、いったんは自分のいのちを救えるが、やがて起きるエルサレム陥落に巻き込まれて死ぬ
- (2) わたしのためにいのちを失う者は、それを見出だす・・・イエスのために死ぬなら、いのちを与えるという約束。イエスをメシアと認め、イエスのために殉教するなら、メシアの王国が始まる時に復活することになる。
- (3) 十字架を負う・・・十字架を負うとは、ただ命を奪われるだけでなく、そしりを受ける、辱められる、ということ。さらに自分ひとりだけでなく、家族も非難の対象となる。これは、イエスの弟子となることの代償を覚悟せよ、との意味。

ここまで通して、リトリート第4回の出来事を振り返ると、「ペテロの告白」は、目の見えない人が癒されたときの第一段階「ぼんやりと見える」に当たると言えよう。

ペテロはじめ弟子たちが霊的にはっきりと見えるようになるのは、使徒の働き の 2 章、紀元 30 年の五旬節、聖霊が降るときを、待たねばならない。